

ネットワーク型基幹研究プロジェクト日本関連在外資料調査研究・活用事業
ヨーロッパにおける19世紀日本関連在外資料調査研究・活用
—日本文化発信にむけた国際連携のモデル構築—

中間評価報告書（第2次評価）

1. 総合評価

順調に進んでおり、質的・量的側面から十分な成果が見られる

2. 総合所見及び特記事項

(総合所見)

予算上の制約等がある中、外部資金または連携機関の予算を活用し、各班とも現地における調査を積極的に行い、貴重な成果があがっていることは高く評価したい。その成果は『よみがえれ！ シーボルトの日本博物館』と国際連携展示『KIZUNA: Japan | Wales | Design』として結実している。一方、研究体制の面では、各班ともそれぞれ活発に研究を推進しているが、それらを統括しどのようにまとめ上げていくかについて、これまでの研究経過からは十分に読み取ることができなかった。ただし、今後、各班の連携強化に係る取組を予定しているとのことなので、そのような機会を活かし、刊行物として発刊していくことによって、プロジェクト全体としての成果発信につなげることを期待したい。

教育・人材育成について、各班でそれぞれ事業に取り込んだことに加え、プロジェクトメンバーが大学で講義を担当していることは評価できる。さらに、プロジェクト全体としてどのように人材育成に取り組むのか、その教育プログラムをどのように構築するのか、後半3年間の取組に期待したい。

(特記事項)

特になし